



特定非営利活動法人 なんとなくのにお 通信

URL <http://www.nantonakuno.net/>

Mail info@nantonakuno.net

久しぶりのクリスマス会

クリスマスソング集を印刷して、数週間前から歌や楽器を練習、ツリーや飾り付けはパス、軽食メニューは「たこ焼き」に決まり、子どもたち、ご家族、メンバーに連絡し、久しぶりのクリスマス会を迎える準備ができました。さて、12月25日の月曜日、当日は？ 以下、寄せられた感想です。

たくさん集まってくれるだろうかという不安もありましたが、当日は大賑わいであちらこちらで会話の花が咲いていました。久しぶりの「たこ焼き作り」はコツさえつかめばお手のもの。自称たこ焼き名人も次々と誕生し、みなさんとの会話のきっかけとして大活躍しました。ギター演奏が始まると、一緒に歌う人、リズムに乗る人、タンバリンで参加する人、ほかのことをして過ごす人、みんなちがって、みんないい！それがなんとなくのにおの過ごし方です。はじめての人も、お知り合いの人も、おとなも子どもも何かのきっかけがあれば



何年ぶりだろう...たこ焼きプレート登場。

こんなふうにご過ごすことができる。そのきっかけがなんとなくのにおにわたったら嬉しいなと思いました。(M)

ふだんも、ときどきギターやベースで合奏しています。曲が決まり、歌う人がいて、コードを合わせれば小さなライブハウス。加えて今回は聞いてくれるみなさんがいました。“The First Noel”などのクリスマスの定番曲、クリスマスの頃に練習していて、しばらくご無沙汰だった「いつかのメリークリスマス」や、いまや「定番懐メロ」のスピッツの曲、Beatlesの“Octopus’s Garden”など、歌と演奏が続きました。(T) たくさん参加者で楽しい会になりました。みんなでたこ焼き作りをしたり、歌や合奏で盛り上がりましたね。皆さんの協力の賜物です。これからもなんにわらしい楽しいイベントができれば嬉しいです。(S)

みんな笑顔になれた会でした。あれれ、ところで何人集まったんだろう。いつの間にか参加している人もいたし...。15人から20人くらいだったでしょうか。

「子どもの居場所」に集う人たちが自由に過ごせる「なんにわ」の雰囲気大切に、感染症には注意しながら、今年も、のんびりゆったり活動していきたいと思います。(手塚)



子育て・親育ちの茶話会

場所：子どもの居場所（日光市今市316-4）

日時：毎月 第2月曜日（午前10時～12時）

次回の予定は電話でお問い合わせください。

参加費：300円（お茶代）

同じ悩みを持つ親御さん同士、気持ちを許し合って、情報や悩みを分かち合いましょう。「一人で悩まず、みんなで！」を合い言葉に。
(Tel: 090-3227-7079)

目次

久しぶりのクリスマス会	1
放射性セシウムはどこに	2
こどもワカモノフェスタ	3
活動報告	3
こんな本はいかが・64	4

居場所のひとこま

玄関右手の小さなギャラリーです。パッチワークサークル「レモンスター」さんの作品を展示しています。どうぞ手に取ってご覧ください。会員のFさんが取り組んでいる「折り紙で作る多面体」も各種展示予定です。興味のある方はぜひスタッフにお声かけください。(N)



放射性セシウムはどこに

東日本大震災の年、6月発行の通信24号・編集後記は「原子力発電所の事故によって大規模な放射能汚染が始まり、今後の見込みがたたないまま3か月が過ぎました」という書き出しで始まっています。以下引用します。「放射線の生物への影響については未知の部分が多く、十分な理解に至っていません。X線の発見やラジウムなど、放射線を出す物質(放射能)の発見から100年あまり。放射線はその作用が生物の体内に蓄積し、数十年という長い時間が経過した後に影響があらわれるという特徴を持ちます。しかもそのことに人が気付いたのは、原子爆弾や原子炉の研究が始まった6、70年ほど前。人間は寿命の長い生物です。遺伝も含め、放射線の影響を評価するには、まだまだ時間がかかるでしょう…。」これが2011年、原発事故直後にまとめたコメントでした。この年の6月に放射能汚染測定を目的とした福島土壌調査 www.rcnp.osaka-u.ac.jp/dojo/に参加したことがきっかけとなり、日光地域でも土壌汚染のデータを残そうと「環境研究班」を立ち上げました。研究班の活動については、ホームページ「なににわ通信」第26号から順に参照していただければと思います。

いま稼働中の原発は10基ほど、原子炉内はウランの核分裂が連続する「臨界」という状態にあり、ウランの原子核に閉じ込められていたエネルギーが解放され熱が発生しています。この熱でお湯を沸かし発電機を回して電気を作る仕組みが原子力発電です。ウランが分裂してできた原子は「燃えカス」として原子炉に溜まっていきます。この「燃えカス」の中に存在する不安定な原子(放射性同位体)が原発事故で大きな問題を引き起こす「放射能」です。

原発事故の直後には「ヨウ素131」が問題になりました。原発から飛散した放射能が付着し、栃木のホウレンソウが出荷停止になったことがありました。ヨウ素131の原子は約8日の間に半数が崩壊を起し、同時に放射線を放出して安定な原子に変わります。このことを「ヨウ素131の半減期は8日」と言います。8日で半分、16日で4分の1、24日目では8分の1と減少し、半年も経てば測定が難しいレベルになります。ヨウ素をホルモン分泌の材料として使う甲状腺は放射性ヨウ素による被ばくを受けやすい器官です。放射性ヨウ素による甲状腺の被ばくはごく短期間ですが、その数十年後、甲状腺組織内にがんが発生する可能性が指摘されています。2012年に日光市主催で開かれた「健康を考えるシンポジウム」で当時の斎藤市長は「最悪を覚悟して最善を尽くす」と話し、日光市独自の甲状腺超音波検診を開始しました。検診は10年間続けられましたが、昨年打ち切りとなりました。福島での検診・治療の現況を考えると、とても残念な判断だったのではと思います。

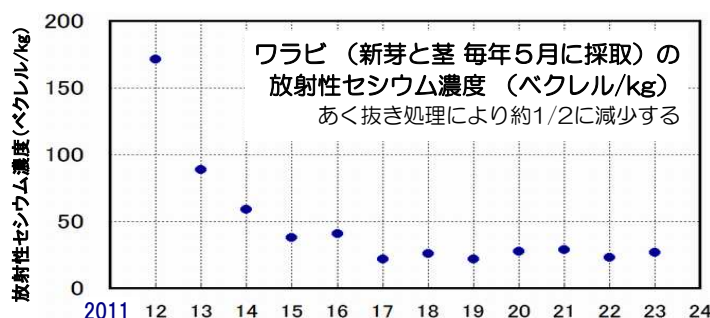
ヨウ素131と同様に、福島第一原発から大量に飛散した放射能に「セシウム134」、「セシウム137」があります。ほぼ同量のセシウム134と137が飛散したと考えられています。同じ放射性セシウムの同位体であっても原子核の構成によって半減期には長短があり、この2種類の放射性セシウムの半減期はそれぞれ約2年と約30年です。経過年数で



の減少の様子をグラフに描いてみました。【上図】横軸は原発事故からの経過年数、矢印は13年目を指しています。セシウム134は減少が早く、13年の現在、98.7%が崩壊し、1.3%を残す状態になりました。はじめの量に対しておよそ100分の1に減ったこととなります。いっぽうで半減期30年のセシウム137はゆっくり減っていきます。まだ約74%が崩壊せず、30年後にやっと半分、60年後でも25%。22世紀になって約10分の1が残っています。

さて、そのセシウム137はどこにいますのでしょうか。福島原発事故より以前に起こった原子力施設事故や原爆による「死の灰」の調査などにより、放射性セシウムは土壌の表面10cm程度にとどまり、地下深部には侵入しないことがわかっていました。その後の研究においても、土壌中のセシウムは深度方向にはあまり移動せず、水平方向には地表の状態により移動するという報告があります。つまり、セシウム137は土壌成分と結合したまま、水の流れなどによって地表を移動しているのです。原発事故後、日光市は1,215か所の公共施設や住宅地の除染を実施したそうです。汚染土壌はすべて敷地内に保管されています。これからの管理対策の判断材料として、周辺の放射線量測定に加えて、土壌に含まれる放射エネルギーを測定することが大切なのではと思います。身の回りに存在する放射能の量や、環境での動きを知ることは、とくに放射線の感受性が強い子どもたちを守ることもつながります。たとえば、雨どいの下など水のたまりやすい場所は、周囲より放射線量の高い場所と考え、不要な被ばくを避けるといった生活の中での行動は今後も必要となる知識です。

ワラビは独特の苦味を楽しめる春の山菜です。近くの草地で毎年5月に採取していたワラビの新芽。そのワラビに含まれる1kgあたりの放射性セシウム濃度(ベクレル/kg)を2012年から測定しています。その結果が下の図です。2017年頃から放射性セシウム濃度はほぼ25(ベクレル/kg)のまま減少していません。こういった傾向は当分の間続くのではと思います。野菜や果物に含まれる放射能濃度は土壌の状態で変化します。「計って守る」ための情報を今後も発信していきたいです。(手塚)



☆ 活動日誌

- 10月31日(火) 通信「なんとなくのひろば」第73号 発行
- 11月 7日(火) 第116回 理事会
- 11月13日(月) 茶話会(第121回)
- 11月15日(水) 学校以外の場における教育機会の確保に関する連絡会
- 11月20日(日) ベリー会(月例会)
- 12月10日(日) ベリー会(学習講演会)
- 12月11日(月) 茶話会(第122回)
- 12月15日(金) スマイル日光寄付金 報告書提出
- 12月25日(月) クリスマス会
- 12月26日(火) 2023年 居場所じまい・大掃除
- 1月 5日(金) 2024年 居場所びらき
- 1月 9日(火) 第117回 理事会
- 1月29日(月) 折り紙で作る多面体(市民活動支援センター)



子どもの居場所 向かいの市民活動支援センターの脇に立つ震災記念碑
(今市地震 1949年12月26日午前8時)
記念碑の足元には、小さな赤いツバキが咲いていました

さくらそう関連

2023年度 日光市相談支援専門員連絡会

- 11月22日(水) 第8回日光市相談支援専門員連絡会 訪問看護について 精神特化、訪問看護ステーションあやめ
- 12月27日(水) 第9回日光市相談支援専門員連絡会 訪問薬剤管理指導について ウェルシア
- 1月24日(水) 第20回日光市相談支援専門員連絡会 ストレングスについて

2023年度 日光市障がい者自立支援協議会

- 11月 9日(木) 第6回ケース・事例検討会議 近藤式事例検討
- 12月14日(木) 第6回ケース・事例検討会議 近藤式事例検討
- 1月11日(木) 第6回ケース・事例検討会議 近藤式事例検討

県西圏域障害者相談支援事業者等連絡会

- 10月25日(水) 社会資源の情報交換・近藤式事例検討会・新事業所紹介(日光)



2024年3月3日(日) 10:30~16:30 (出入り自由)

宇都宮アミックス 〒320-0066 宇都宮市駒生1-1-6

主催：栃木県こどもワカモノフェスタ実行委員会

wakaf11@gmail.com

ワークショップ(10:30 - 12:30)

① 子どもの居場所ガチサミット(大人)

10年後、すべての子どもに居場所がある栃木をつくろう！未来のためにできることを本気で話し合うワークショップです。

② 学校や家でのモヤモヤ、一緒に考えてみよう(子ども)

「なんかモヤモヤするな」って感じたり「やだな」思う時、それって「子どもの権利」に関係してるかも。一緒に考えてみよう。ヒントになるような遊びもあるよ。

講演会 講師：後藤誠子さん(13:30 - 15:30)

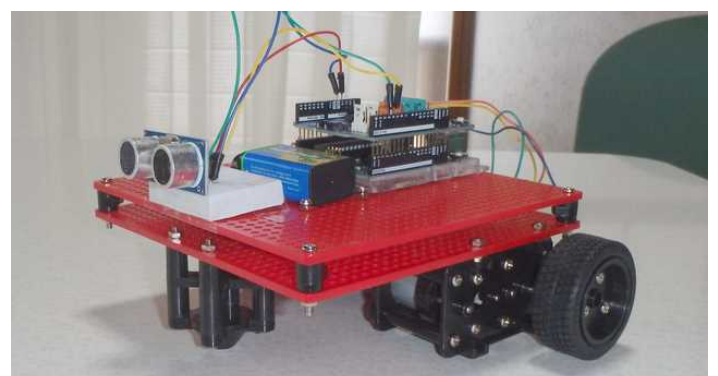
笑いのたねプロジェクト代表/労働者協同組合ワーカーズコープ・センター事業団 北上笑いのたね事業所 所長

次男の不登校・ひきこもりをきっかけに自分にしかできないことがあると気づき、生きづらさを抱えた人たちと地域をつなぐ活動を始める。現在は不登校ひきこもりの親としての講演やコミュニティFMでの発信、様々なイベントの企画、誰でも来られる居場所『ウラタネスクエア』の運営などを行っている。『世界一受けたい授業』『ウワサの保護者会』など出演多数。

その他、親の会 or 活動発表、手作り品などの物販、カレーなどお食事コーナー、子どもたちのためのフリースペース(ボードゲームなど遊び道具がいっぱい)といった企画が盛りだくさん。

「なんとなくのこにわ」は、今回も午前10時~お昼ごろまでの展示です。前回に引き続き「デジタル回路とプログラミング」そして「宇宙線を見る」を準備しています。こちらはドライアイスをどうにかしなければならぬ(通信71号・後記参照)なのですが、やはり宇都宮の業者さんから手に入れるのが確実だとわかり、準備中。イベント詳細とチケット購入はここ↓を参照ください。

「子どもの居場所」では手軽に購入でき、PCとの接続も容易な小型CPUボード micro:bit や Arduino を使って遊んでいます。貸し出しも可能です。興味のある方はぜひ声をかけてください。(福田、手塚)





私たちの活動目的：

日光市とその周辺地区に居住する子どもおよび青少年等に対して、学習や自立のための支援活動と地域への啓発活動を行い、社会に出た後も継続性のある、支援と学びの場を作り出します。

私たちの事業：

- ① 子どもたちの自主性および自立性を尊重した居場所の提供および学びの場の運営
- ② 子どもたち一人ひとりに対応した、新たなカリキュラムや学習内容の開発
- ③ インターネットなどのIT環境を活用した学びの支援
- ④ 教育についての相談や情報提供活動
- ⑤ 学校外で育つ青少年の自立に関する相談および就労を支援する活動
- ⑥ 自然環境の中での学びを作り出し、自然環境保全の大切さを啓発する活動
- ⑦ 障がいの理解および啓発に関する企画運営事業
- ⑧ 第二種社会福祉事業の相談支援事業経営

こんな本はいかが？ その 64

H.P.ラヴクラフト の作品集

記憶のどこかに住んでいて、ふと読みたくなる、Howard Phillips Lovecraft (1890-1937) というアメリカ人作家を紹介します。怪奇譚なのかSFなのか不思議な魅力を感じて文庫本全集7冊を本棚に並べていたことがありました。全巻部読んだような気もするけれど、どういわけか、いまは第6巻しか残っていません。棚の裏側の暗闇に本が勝手に移動したのか、次元の異なる方向から魚神ダゴンや異星人が触手を伸ばし持っていったのか、誰かに貸したままなのか、ともかく行方不明。さいわい、数年前に新訳の選集が新潮文庫から出たので、気に入った短編をまた開くことができるようになりました。

ラヴクラフトはロードアイランド州プロビデンスに生まれました。アメリカで最も早く入植が始まった地域のひとつだそうです。その町で怪異小説、幻想小説をパルプ雑誌に書き続け、評判をとることもなく終わった作家です。死後、多数の作品に描かれた怪奇・幻想・空想世界の支持者・追従者があられました。「ラヴクラフト辞典」まで編纂され、コンピュータゲームへの影響を論ずる人もいるほどです。

怖い人物やゾンビが暴れまわるホラー小説ではありません。何気ない日常の裂け目から、その場を暗黒に引きずり込む「何か」がゆっくりと出現し、世界全体の秩序が乱れていく。そんな恐怖をモノログで語る。そのスタイルが後年、従来の恐怖小説のレベルを「宇宙的恐怖＝モダンホラー」に高めたと評価されているのです。

ラヴクラフトの生きた20世紀始めは科学分野の新発見が相次いだときでした。彼の生み出した「宇宙的恐怖」も相対論や量子論の「薄気味悪さ」と深くつながっています。幻想の4次元空間をゴトゴト走る「銀河鉄道の夜」の宮澤賢治や、三日月に魅せられた王の狂気の物語「黄漠奇聞」の稲垣足穂などが日本にも現れました。文学が科学から異次元の幻想力を得た時代だったのでしょうか。

ラヴクラフト全集(1～7、別巻) 大瀧啓裕 訳 創元推理文庫
クトゥール神話傑作選(1～3) 南條竹則 訳 新潮文庫
がおすすめ。細密なコミック版もあるようですが、まずは活字からのラヴクラフト体験を。「インスマスの影」がイチ押しです。(手塚)

会員について

正会員：52
賛助会員：13
団体会員：4

入会金なし

年会費(一口)
正会員 3,000円

賛助会員
個人 5,000円、
団体 10,000円



私たちの活動は会

費と寄付金でまかなわれています。応援をよろしく願います。会員は新たな事業の提案、会の事業の運営などに直接かかわることができます。みなさまの積極的な参加をお願いします。

なんとなくのへや

地震や事故で始まった2024年、お正月気分もどこへ行ったのかよくわからないまま1月後半。「ああ、もうすぐ21世紀の4分の1が過ぎてしまうのだなあ」とぼんやり考えている■お正月の新聞に寺島実郎さんという方が「明治維新から1945年の終戦までは77

年。これは終戦から現在までとほぼ同じ長さ。そして77年後は22世紀最初の年。これからの77年を『未来圏』の21世紀と捉えた国家構想が、いま求められている」と語った記事があった■都内の区立小学校に通う小学校1年生が来宅。冬休みの宿題をと、iPadらしきタブレットを取り出し、画面をタップして足し算や引き算のページを開いた。後ろから眺めていたら疑問がわいてきた。問題の階層構造が変で、ゲームのインターフェースに慣れてる子にはかえって操作が面倒かも。何か教育的配慮が...とも思ったが、ページによっては解答欄の一部が画面をはみ出している。単にアプリの作り込みが手抜きなのでは■もし小学生の自分がこの光景を見たら「未来の学校ははすごい！」と思うのだろうか。タブレットで宿題に取り組む小学生の姿に「21世紀の未来」を感じるだろうか。宿題の進捗状況が即座にデータベースに反映される子どもはたいへんだし、チェックしなければならぬ担任の先生もたいへんだと思う。「終戦から現在までの77年間」とほぼ重なる世代としていままで経験した世の中の変化を反省も込めて振り返り残していくことは何かの参考になるのかもしれない。(T)